

山東省済南市政府との交流会

山東省済南市人民政府、都市農村建設委員会の武副主任を団長とする訪日団が来日されました。目的は、日本における内装付住宅の視察と済南市が推進する「済南住宅産業基地」のPRです。

現在中国では、多くの地方都市がエコシティなどの建設計画を進めていますが、済南市は住宅産業基地においてCSI住宅（スケルトンインフィル）を具体的に推進していくために住宅団地をモデル団地として計画しており、また工業団地においては日本の住宅建材・設備企業の投資を期待しています。

先ず、大阪で住宅メーカーの研究所や工場の視察と住宅展示場を見学し、東京ではUR（都市再生機構）の施設などを視察した後に、当協議会との交流会を持ちました。

日 時：2010年10月20日（水）15：00～17：00

場 所：財団法人日本建築センター 5階会議室

参加者：中国側；済南市都市農村建設委員会武兆軍副主任、同委員会建築管理处魏濤副処長、住宅産業化発展センター王全良主任、他4名

日本側；当協議会会員企業より17社21名（事務局除く）

交流会の内容報告：



コーディネーター：呉建築事務所の呉所長



手前が日側参加者、奥が中側参加者

1. 当協議会より日中建協の概要と会員企業の中国での事業の取り組みなどを紹介した。
2. 引き続き、済南住宅産業団地とCSI住宅についての説明があった。
 - 1) 住宅産業団地は済南市政府によって認可された工業団地で、情報と通信社会対応のプラットフォームとしての機能と金融、研究開発等のセンターエリア、工業団地エリア、物流団地エリアの1つのプラットフォームと3つのエリアで構成される。
 - 2) 済南市政府は、住宅産業団地建設の推進を促進するために住宅産業化発展センターを設立し、都市農村建設委員会の管理の下、諸問題の解決に当たる。
 - 3) 工業団地においては、住宅設備企業、外装材企業、床材等内装部材製造企業等を誘致したい。同時に、環境・省エネ関連の研究開発や製造を行う企業の投資を期待する。
 - 4) 工業団地においてCSI住宅を推進するため、2つの住宅団地をモデル事業として計画している。

3. その後、主に日本側参加企業からの質問に中国側が答えるという形式で、意見交流会となりました。

主な質疑は次の通り：

- Q；CSI住宅は内装付住宅なのか？
 Q；内装の施工はどのような体制で行うか？
 Q；低炭素化などについて減税措置や政策はあるか？また、住宅団地において建設される住宅は低層住宅か高層住宅か？
 Q；住宅の産業化または工業化という言葉が使われるがその定義は？また、それを推進するための法制化や優遇政策は？
 Q；済南住宅団地建設の取り組みは済南市に限った取り組みか？



4. 日本側からの提案：
- 1) CSI住宅を推進するためには施工の効率を上げることが重要。
 - 2) 住宅部品や設備の工業化が進み、施工の際に各メーカーの製品などの組み合わせが複雑になれば作業効率は更に重要となる。
5. 中国側からの提案：
- 1) 中国は現在大量に住宅を建設しているが、今後は品質をもっと上げていきたい。
 - 2) そのために、住宅の産業化や工業化、CSI住宅について推進はしているが今まで経験がない。日本の技術や経験を教えてほしい。
6. 今後の取り組みについて
- 1) 今回の済南市政府との交流会は、呉建築事務所の呉氏のコーディネートにより実現したものの。
 - 2) 呉氏には、11月9日のフォーラムで講師として「中国住宅建設の新展開がもたらす日本企業参入の可能性」のテーマで講演をいただくなど、今後当協議会の提携パートナーとして交流を続けていきます。
 - 3) 済南市政府への対応も呉建築事務所を通じて、今後、会員企業の皆様への新たな情報発信等を行います。

報告の詳細は、会報誌「日中建築住宅情報」No.188、10・11月号を参照ください。